

# Tokyo Fiscal Forum 2016の 概要について

## 「高齢化社会における長期的な成長と 財政の持続可能性に向けた財政政策： 持続可能な社会保障支出の達成」

財務総合政策研究所 前主任研究官 酒井 才介

財務総合政策研究所 主任研究官 鶴岡 将司

### 1. 開催について

2016年6月6日・7日、財務総合政策研究所（財務総研）・IMF 財政局・アジア開発銀行研究所（ADB I）は、高齢化社会における長期的な成長と持続可能性に向けた財政政策に関し、政策担当者や有識者を集めたTokyo Fiscal Forum (TFF) 2016を東京で開催した。昨年6月に第1回が開

催され、今回が第2回目の開催となる（開催の経緯や第1回の会議の概要については、『ファイナンス』2015年8月号[http://www.mof.go.jp/pri/research/special\\_report/f06\\_03.pdf](http://www.mof.go.jp/pri/research/special_report/f06_03.pdf)を参照）。

本フォーラムのテーマは、「高齢化社会における長期的な成長と財政の持続可能性に向けた財政政策」である。現在、多くの国々で高齢化が進展



【フォトセッションの様様】

TFF2016に参加した国・機関等・大学の出席一覧

国	機関等	大学
バングラデシュ	国際通貨基金	東京大学
ブルネイ・ダルサラーム	アジア開発銀行研究所	一橋大学
カンボジア	財務省・財務総合政策研究所	ソウル大学
インド	世界銀行	ロンドンスクールオブエコノミクス
ラオス	米州開発銀行	ハワイ大学
マレーシア	アジア開発銀行	ニューサウスウェールズ大学
モンゴル	中国新供給経済学研究院	ニューヨーク州立大学バッファロー校
ミャンマー	韓国金融研究院	
大韓民国	タワーズワトソン	
スリランカ		
タイ		
ベトナム		

しており、社会保障費の急増といった財政の持続性に対する潜在的なリスクを抱えている。特に、その潜在的なリスクが大きいと考えられるアジア諸国において、高齢化が進展する中で長期的な成長と持続可能性に向けた社会保障制度をどのように構築していくべきか、各国や国際機関、研究者等のこれまでの経験や教訓、今後実施する取り組み等に関する知見を共有することを今回のTFFの目的とした。

今回のTFFにおいては、テーマの副題を「持続可能な社会保障支出の達成」として、社会保障支出の中でも特に医療と年金に焦点をあてて議論が行われた。

フォーラムには、主催者である財務総研、IMF 財政局、ADBの他、アジア太平洋地域の財政当局・研究機関職員、世界銀行、アジア地域外からの専門家、国内外の大学教授、一般参加者（学者、民間シンクタンク、大使館職員等）も含め約100名が参加した。基調講演後の各セッションでは、Overview プレゼンテーション・Country プレゼンテーションの順でプレゼンターが発表し、それを受けてディスカッサントが政策的・学術的観点から討論を行った。その後、フロアの参加者も交えた活発な質疑応答が行われた。

なお、フォーラムで発表された発表資料の多くは財務総研ウェブサイトにて公表されている (<http://www.mof.go.jp/pri/research/seminar/tff2016.htm>)。また、本稿の最後にアジェンダを掲載した。

以下では、各セッションの概要を報告する。

## 2. 浅川財務官による開会挨拶及び古澤IMF副専務理事、吉野ADB所長による基調講演

セミナー冒頭、主催国として、浅川財務官から開会の挨拶を行った。挨拶では、日本が直面する高齢化社会の現状や、日本のこれまでの取り組みについて紹介され、国民皆保険・皆年金の先駆者である日本が、2016年5月に伊勢志摩で開催されたG7サミット等の場で、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの普及に向けて国際的に貢献していること等が述べられた。

次に、各機関の代表者による基調講演が行われた。以下では、基調講演の主な内容を紹介する。



【浅川雅嗣財務官】



【古澤満宏 IMF 副専務理事】



【吉野直行 ADBI 所長】

#### ○古澤IMF 副専務理事

- ・人口高齢化と出生率の低下が経済成長のネックとなり、これが財政に重要な影響を与えること、アジアにおいては所得格差が拡大する傾向がみられることについて問題提起した上で、政策担当者は、適切に設計された財政政策に支えられながら構造改革を推し進める必要があり、特に医療及び公的年金はアジアにおける構造改革の重要な項目となると述べた。

#### ○吉野 ADBI 所長

- ・日本は高齢化社会に直面し、年金や高齢者の医療費負担が増大している中で、多くの人が老後も働き続けることが重要となっていくと思われる。実際に高齢者の労働意欲は高いと言う調査結果もある。給与が年功序列型ではなく、生産性に基づくものならば、多くの企業が熟練労働者を雇い続けられるし、ロボットが高齢者のサポートもできる。高齢化社会は日本だけではなく、アジア、欧州の課題でもあるが、日本は最も早く高齢化社会を迎えるため、日本の政策を各国が注視していると述べた。

### 3. セッション1

セッション1では、Odd Per Brekk IMF アジア太平洋地域事務所長の司会の下、アジア諸国における国民医療制度の適切な対象範囲についての議論が行われた。

まず Overview プレゼンテーションとして、Soonman Kwon アジア開発銀行保健セクターヘッドから、「アジアのユニバーサル・ヘルス・カバレッジへのファイナンス」と題し、高齢化が進む中で、医療保険の財政的な持続可能性と質を確保するための様々なツール等についての報告があった。また、橋本英樹 東京大学大学院教授から「日本における国民皆保険実現のための財政措置に係る歴史的経緯と価格規制の役割」と題し、医療制度については国民の健康水準や経済成長にも関係し、高齢化が進む中でどのように再分配やリスク分散を行っていくか、財源確保だけでなくどのような価値を目指すのかが政治的な議論において重要である等の報告があった。

Country プレゼンテーションとして、Bongmin Yang 韓国ソウル大学教授から、「韓国における集権化された社会保険制度の改革」と題し、韓国においてユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成がゴールではなく、高齢化と出生率低下が進む中で、高い自己負担率が貧困層に与える影響、出来高払い制による医療費の増大といった課題があること等について報告があった。また、Hung Dang Viet ベトナム保健省計画財政局次長から、「ベトナムにおける国民保険の対象範囲の拡大に係る取組みと成果」と題し、ベトナムでは補助金により医療保険をまかない貧困層をカバーする医療皆保険を導入しているが、どのようなサ

ービスまで医療保険でカバーするか、どのように自己負担を減らすかが課題となること等について報告があった。

## 4. セッション2

セッション2では、Bokhwan Yu アジア開発銀行研究所副所長の司会の下、持続可能な医療制度を達成するための方法について議論が行われた。

Overview プレゼンテーションとして、Sanjeev Gupta IMF 財政局次長から、「医療支出の管理：財政推計と改革の効果」と題し、先進国及び新興国において医療支出の増加により公的債務が増大傾向であり、平均寿命の伸びや技術進歩により今後も医療支出の伸びが見込まれる中で、財政の持続性を確保しつつ医療保険対象範囲を広げるために、効率性の観点も重要であること等の報告があった。また、Alistair McGuire ロンドンスクールオブエコノミクス教授からは、「持続可能な医療制度を達成するための方法：先進国における医療技術評価の成果と課題」と題し、医療技術評価について、国民のベネフィットとリスクの評価を行い、負担に見合う価値を実現していくことが重要である等の報告があった。

Country プレゼンテーションとして、Jaafar Safurah マレーシア保健省家族医療開発課長から、「マレーシアにおける効率的な医療支出に係るゲートキーパー（かかりつけ医）の役割」と題し、マレーシアにおいてはプライマリーケアが広く普及しており、その重要性についてもよく認識されているものの、さらなる効率化のために、公的施設と私的施設の最適な組み合わせ、病院の運営管理のモデルチェンジ、慢性疾患に対する適切な対処が必要であること等について報告があった。また、Sripen Tantivess タイ保健省医療介入技術評価プログラム担当から「タイにおける医療技術評価を用いた医療皆保険の給付策の評価」と題し、医療技術評価は、エビデンスに基づいた政策を行う上で、医療保険の対象範囲の決定とプログラム設計に有用であること等の報告があっ

た。

報告を踏まえて、井伊雅子 一橋大学国際・公共政策大学院教授から、医療技術評価については医療技術だけでなく医療制度全体についての評価も必要であること、費用対効果は慢性疾患を対象とするべきであること、オーストラリアの家庭医は低コストで質の高いケアを提供していること等についてコメントがあった。

## 5. セッション3

セッション3では、Bouangeun Ounnalath ラオス財務省財政政策局長代理の司会の下、公的年金制度の設計についての議論が行われた。

Overview プレゼンテーションとして、Nicholas Barr ロンドンスクールオブエコノミクス教授から、「公的年金制度の役割と改革の選択肢」と題し、金融教育を過大評価してはならないこと、政策の選択肢を広げることはかえって物事を複雑にしまうことについて問題提起をした上で、高齢化が問題ではなく定年制のあり方が重要であること、最終的に重要なのは受給額（アウトプット）と行政の効率化であること等の報告があった。また、Sang-Hyop Lee ハワイ大学教授から、「高齢化と公的・私的年金の世代間移転への影響」と題し、高齢化は公的セクターの改革を必要とし、ライフサイクルに応じた年金改革が重要であること、新興国にとって改革は長期的に持続可能で世代間でバランスがとれたものでなくてはならず、先進国の経験が参考になる等の報告があった。

Country プレゼンテーションとして、Isa Rachmatarwata インドネシア財務省専門スタッフから、「インドネシアにおける年金制度の対象範囲拡大と管理体制強化に係る近年の成果」と題し、インドネシアの取組みと、高齢化が進む中で労働者の生産性を上昇させる必要があること、公的年金でカバーされていない層への対応が課題であること等の報告があった。また、Yvonne Sin タワーズワトソン中国投資サービス部門ヘッドより、「人口動態の変化の下での公的年金改革（中国の例）」と題し、透明性のあるファイナンスの



枠組みの構築と将来のコストの評価が重要であること、運用管理の規制・ガイドライン・監視が強化される必要があること等の報告があった。

報告を踏まえて、Sanjeev Gupta IMF 財政局次長から、インセンティブに与える影響、成長や世代間の調整コストも踏まえた年金制度改革が必要であること、技術進歩や労働の多様化、インフォーマルセクターへの対応が課題になる等のコメントがあった。

## 6. セッション4

セッション4では、Guanghua Wan アジア開発銀行研究所研究部長による司会の下、不確実性と人口動態の変化の下での公的年金制度の課題について議論が行われた。

Overview プレゼンテーションとして、上田淳二 IMF 財政局審議役から、「先進国と新興国における公的年金制度の近年の改革」と題し、年金制度の設計においては持続可能性と十分性、水平的公平と垂直的公平のトレードオフが課題となること等について報告があった。また、吉野直行 アジア開発銀行研究所長から、「年金の財源と国内貯蓄：マクロ経済的インプリケーション」と題し、日本の年金の運用はアメリカに比べパフォーマンスが良くないことについて問題提起がなされた上で、資産運用会社に対するガバナンスが重要であること等について指摘がなされたほか、アジアや日本の年金の運用には、アジアの金融市場の発展が重要であること等について報告があった。

Country プレゼンテーションとして、Hazel Bateman オーストラリアニューサウスウェールズ大学教授から、「オーストラリアにおける公的年金支給年齢の調整」と題し、オーストラリアは老齢年金の支給開始年齢を引き上げたが、公的年金支給年齢の引き上げには、労働市場への影響の評価が重要であること等について報告があった。また、鶴田晋幸 財務省財務総合政策研究所総務研究部長から、「人口動態に対応した自動的な給付額調整メカニズム」と題し、日本において2004年にマクロ経済スライドが導入されたこと、

財務総合政策研究所のモデルに基づく長期推計ではマクロ経済スライドが機能する場合は年金支出が他の社会保障支出に比べて相対的に抑制されることを紹介した上で、物価（賃金）が上昇しない場合にはこのメカニズムが機能しないことや所得代替率が50%まで低下した場合は所要の措置が必要となること等について報告があった。

報告を踏まえて、Phalla Phan カンボジア経済財政省局長から、拠出率の設定は将来のリターンや国内の消費への影響も考慮する必要があること、インフォーマルセクターを支えるのが課題であること等についてコメントがあった。

## 7. 特別セッション

特別セッションでは、Santiago Levy 米州開発銀行セクター・知識担当副総裁から、「社会政策、社会保険非対象者への対応と経済成長」と題して、ラテンアメリカにおいてはインフォーマルセクターへの社会政策は生産性にマイナス影響が出ていること、単一財源からユニバーサルな給付という制度への移行が重要であること等について報告があった。また、Isaac Ehrlich ニューヨーク州立大学名誉教授から、「退職後の個人の資産選択における資産管理、医療及び教育の役割」と題し、教育がリスク資産への高い需要につながる重要な要素であること、人々が健康になればリスク許容度が上昇すること等について報告があった。

## 8. ランチスピーチ

2日目のランチの際に、Loi Viet Nguyen ベトナム財政研究所所長から、ベトナムの年金制度改革について紹介した上で、支給開始年齢の引き上げ、所得代替率の修正、賦課方式から積立方式への移行が望ましいこと等について報告があった。

## 9. ラウンドテーブルディスカッション

最後に、Sanjeev Gupta IMF 財政局次長の司会の下で、Nicholas Barr ロンドンスクールオブエコノミクス教授をコメンテーターとして、可部



【ラウンドテーブルディスカッションの様様】

【TFF担当者】（前列左から）  
山田浩介・鶴岡将司・酒井才介・菅野悟・越前智亜紀・  
和田誠子・富永健司

哲生 財務省主計局次長、<sup>じやかん</sup>賈康 前財政部財政科学研究所所長/新供給経済学研究院院長、M Santiago Levy 米州開発銀行セクター・知識担当副総裁、Archana Saharya Mathur インド財務省経済局シニア経済顧問、Jae Ha Park 韓国金融研究院シニア・フェローというメンバーで、フォーラム全体で得られた教訓を整理するラウンドテーブルディスカッションを行った。

## 10. 最後に

本フォーラムでは、高齢化社会において、長期的な成長と、持続可能な社会保障制度をどのよう

に実現していくか、特に医療と年金に焦点をあてて、各国の経験や教訓を共有し、議論を行った。高齢化が進行している国々においては、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成する上で、社会保障の安定財源を確保しつつ財政の持続可能性を確保する必要があることが改めて確認され、また今後高齢化社会を迎える国においては、人口動態を踏まえた制度設計や財政運営が必要であるとの教訓が共有された。



【セッションにおける議論の様様】



## 議事次第

# Tokyo Fiscal Forum 2016

「高齢化社会における長期的な成長と財政の持続可能性に向けた財政政策：持続可能な社会保障支出の達成」  
財務省財務総合政策研究所(MOF PRI)・国際通貨基金財政局(IMF FAD)・アジア開発銀行研究所(ADB I)  
2016年6月6日(月)～7日(火) 三田共用会議所 講堂

### ■ 1日目:6月6日(月)

10:00-10:30

#### オープニングセッション

- 開会挨拶(10分) ・浅川雅嗣 財務省財務官  
基調講演1(10分) ・古澤満宏 IMF副専務理事  
基調講演2(10分) ・吉野直行 アジア開発銀行研究所所長

10:50-12:45

#### セッション1:『アジア諸国における国民医療制度の適切な対象範囲』

■司会 (Odd Per Brekk IMFアジア太平洋地域事務所長, IMF)

■発表者 (Overview)

- ① Soonman Kwon アジア開発銀行保健セクターヘッド (20分)  
「アジアのユニバーサル・ヘルス・カバレッジへのファイナンス」  
② 橋本英樹 東京大学大学院教授 (20分)

「日本における国民皆保険実現のための財政措置に係る歴史的経緯と価格規制の役割」

■発表者 (Country)

- ① Bong-min Yang 韓国ソウル大学教授 (15分)  
「韓国における集権化された社会保険制度の改革」  
② Hung Dang Viet ベトナム保健省計画財政局次長 (15分)  
「ベトナムにおける国民保険の対象範囲の拡大に係る取り組みと成果」

(質疑応答:30分)

14:00-15:55

#### セッション2:『持続可能な医療制度を達成するための方法』

■司会 Bokhwan Yu アジア開発銀行研究所副所長

■発表者 (Overview)

- ① Sanjeev Gupta IMF財政局次長 (20分)  
「医療支出の管理：財政推計と改革の効果」  
② Alistair McGuire ロンドンスクールオブエコノミクス教授 (20分)  
「持続可能な医療制度を達成するための方法：先進国における医療技術評価の成果と課題」

## ■発表者 (Country)

- ① Jaafar Safurah マレーシア保健省家族医療開発課長 (15分)  
「マレーシアにおける効率的な医療支出に係るゲートキーパー (かかりつけ医) の役割」
- ② Sripem Tantivess タイ保健省医療介入技術評価プログラム (15分)  
「タイにおける医療技術評価を用いた医療皆保険の給付策の評価」

## ■討論者

井伊雅子 一橋大学国際・公共政策大学院教授 (15分)  
(質疑応答：30分)

16:10-18:00

セッション3：『公的年金制度の設計』

■司 会 Bouangeun Ounnalath ラオス財務省財政政策局長代理

## ■発表者 (Overview)

- ① Nicholas Barr ロンドンスクールオブエコノミクス教授 (20分)  
「公的年金制度の役割と改革の選択肢」
- ② Sang-Hyop Lee ハワイ大学教授 (20分)  
「高齢化と公的・私的年金の世代間移転への影響」

## ■発表者 (Country)

- ① Isa Rachmatarwata インドネシア財務省専門スタッフ (15分)  
「インドネシアにおける年金制度の対象範囲拡大と管理体制強化に係る近年の成果」
- ② Yvonne Sin タワーズワトソン中国投資サービス部門ヘッド (15分)  
「人口動態の変化の下での公的年金改革 (中国の例)」

## ■討論者

Sanjeev Gupta IMF 財政局次長 (10分)  
(質疑応答：30分)

## ■2日目:6月7日(火)

9:30-11:20

セッション4：『不確実性と人口動態の変化の下での公的年金制度の課題』

■司 会 Guanghua Wan アジア開発銀行研究所研究部長

## ■発表者 (Overview)

- ① 上田淳二 IMF 財政局審議役 (20分)  
「先進国と新興国における公的年金制度の近年の改革」
- ② 吉野直行 アジア開発銀行研究所所長  
中林伸一 アジア開発銀行研究所総務部長  
青山直子 早稲田大学ファイナンス研究センター講師 (20分)  
「年金の財源と国内貯蓄：マクロ経済的インプリケーション」

## ■発表者 (Country)

- ① Hazel Bateman オーストラリアニューサウスウェールズ大学教授 (15分)  
「オーストラリアにおける公的年金支給年齢の調整」
- ② 鵜田晋幸 財務省財務総合政策研究所総務研究部長 (15分)  
「人口動態に対応した自動的な給付額調整メカニズム」



## ■ 討論者

Phalla Phan カンボジア経済財政省局長（10分）

（質疑応答：30分）

11:35-12:30

## 特別セッション

## ■ 発表者

① Santiago Levy 米州開発銀行セクター・知識担当副総裁（20分）

「社会政策、社会保険非対象者への対応と経済成長」

② Isaac Ehrlich ニューヨーク州立大学名誉教授（20分）

「退職後の個人の資産選択における資産管理、医療及び教育の役割」

（質疑応答：15分）

12:30-14:00

■ ランチョンスピーチ Loi Viet Nguyen ベトナム財政研究所所長

14:00-15:10

## ラウンドテーブルディスカッション

■ 司 会 Sanjeev Gupta IMF 財政局次長

## ■ 参加者

① 可部哲生 財務省主計局次長

② 賈康<sup>じやくあん</sup> 前財政部財政科学研究所所長/新供給経済学研究院長

③ Santiago Levy 米州開発銀行セクター・知識担当副総裁

④ Archana Saharya Mathur インド財務省経済局シニア経済顧問

⑤ Jae Ha Park 韓国金融研究院シニア・フェロー

## ■ コメンテーター

Nicholas Barr ロンドンスクールオブエコノミクス教授